



平成28年3月25日(金)、新潟県自治会館別館4階「第二会議室」にて、新潟県国民健康保険診療施設協議会第2回運営委員会を開催した。
 平成28年度事業計画(案)及び会計歳入歳出予算(案)等について協議を行い、全て原案どおり承認された。

新潟県 国保診療施設協議会セミナー 11月4日、5日、南魚沼市で開催



発行所
 新潟市中央区新光町7番地1
 新潟県国民健康保険団体連合会
 電話 025-285-3030
 発行代表者
 新潟県国保診療施設協議会
 会長 尾崎 進



協議事項

(1) 平成28年度新潟県国保診療施設協議会事業計画(案)について
 新潟県国保診療施設協議会関係は7月に総会、11月4日(金)、5日(土)、新潟県国保診療施設協議会医療セミナー、全国国保診療施設協議会関係は5月20日(金)、21日(土)に第30回地域医療現地研究会、10月7日(金)、8日(土)に第56回全国国保地域医療学会が開催される。その他行事予定については別表のとおり。

平成28年度 新潟県国保診療施設協議会行事予定

- 平成28年**
- 5月20日(金) 21日(土)
 ・第30回地域医療現地研究会 高知県・梶原町
 - 6月24日(金)
 ・全国国保診療施設協議会社員総会 東京都
 - 7月中旬
 ・新潟県国保診療施設協議会監事会・第1回運営委員会・総会 新潟市・自治会館
 - 9月16日(金)
 ・東北地方国保診療施設協議会連絡会議 岩手県・盛岡市 「ホテルメトロポリタン盛岡」
 - 10月7日(金) 8日(土)
 ・第56回全国国保地域医療学会 山形県・山形市
 - 11月4日(金) 5日(土)
 ・新潟県国保診療施設協議会医療セミナー 南魚沼市
- 平成29年**
- 1月20日(金) 21日(土)
 ・地域包括医療・ケア研修会 東京都
 - 2月下旬
 ・都道府県協議会会長・協議会設置都道府県国保連合会事務局長合同会議 東京都
 - 3月上旬
 ・新潟県国保診療施設協議会第2回運営委員会 新潟市・自治会館

報告事項

- (1) 平成28年度東北地方国保診療施設協議会連絡会議について
 28年度は、東北地方国保協議会の会長が岩手県のため、平成28年9月16日(金)、盛岡市「ホテルメトロポリタン盛岡」にて開催されパネルディスカッション、特別講演が予定されている。
- (2) 平成28年度新潟県国保診療施設協議会会計歳入歳出予算(案)について
 原案どおり承認された。
- (2) 新潟県国保診療施設協議会医療セミナーについて
 「協議会の会員が一同に会する場を設定しては」との声から、平成28年度事業として終末期医療をテーマに新潟県国保診療施設協議会医療セミナーが新潟県南魚沼市で開催される。
 南魚沼市民病院の視察見学から始まり、特別講演、そして、施設が抱える悩みなどを話し合えるグループディスカッションを予定している。

平成27年度 東北地方国保 診療施設協議会連絡会議開催



平成27年9月18日(金)、青森県青森市「ホテル青森」にて、平成27年度東北地方国保診療施設協議会連絡会議が開催された。

前段に、「東北地方国保診療施設協議会各県会長会議」が開催され、全国国保診療施設協議会の東北ブロック推薦理事の留任について及び、第56回国国保地域医療学会の準備状況について協議された。

その後、連絡会議が開催され、冒頭

の主催者あいさつで高杉滝夫東北地方国保協議会会長は、国保直診のこれまでの経緯に触れ、「近年、医師不足と財政悪化が続くという厳しい状況が続き、その対応が急務になっている。また、高齢化が進む中において、実状に合わせた地域医療構想を策定すべく議論がなされている。今日の会議では、国保直診の意見集約に反映させるため活発な意見交換を求めると決意。次いで来賓である青沼孝徳全国国保診療施設協議会会長より挨拶をいただいた。

その後、会則により小野剛会長が座長として選出され協議に入った。

はじめに平成28年度の役員選出(案)について事務局の説明後、原案どおり承認された。

主な協議結果については次のとおり。

協議事項

○平成28年度の役員選出(案)について

- ・会長は岩手県から1名、副会長は宮城県と青森県から各1名、任期は平成28年4月1日から平成29年3月31日となった。

○その他

- ・各県会長会議の報告を行った。

市民病院の役割は 地域完結型医療の拠点

その後、「地域の医療ニーズを踏まえた『地域医療構想』への対応」国保直診の立場から」をテーマに、パネルディスカッションが行われた。

本県からは魚沼市立小出病院の布施院長が「新潟県魚沼地域の医療再編成と市民病院の役割」と題し、魚沼地域における医療再編の経緯及び当病院の取り組みを発表した。



本県を代表して発表した布施院長

魚沼医療圏は、10年をかけ、高度医療が漏れないこと、将来的に医療機能が担保できること、総合診療医を育成できる教育病院を作ること、地元のプライマリケア機能を充実させることを理念として今年6月再編成がスタートした。

事業のハード面として、マグネットホスピタルとなり高度急性期医療を担う基幹病院の設立。既存の県立病院は、病床数を減らし地域密着型の市民病院となり回復期医療を担う。また施設ごとにネットワークを構築している。ソフト面として地域医療魚沼学校をスタートさせた。

布施院長は、「市民病院の役割は、地域完結型医療の拠点となることと考える。基幹病院と役割を分担して連携することにより地域全体で医療完結のうちのプライマリケアの部分を担当する。そして、地域医療を実際に勉強できる場を提供できるようにならなければならない。多職種との連携で協働実践の場を提供するにあたり最適なものは市民病院型の病院ではないかと思う。

地域包括ケアのための大切な資源、それは住民であって、住民が地域包括ケアにおいて学ぶ場を提供できることが目標である。」と発表した。

発表の後、意見交換、青沼会長が講演を行った。

平成28年度の東北地方国保診療施設協議会連絡会議は、岩手県で開催される。



在宅要介護高齢者の口腔内評価

「医科・歯科連携の取り組み」

(第55回全国国保地域医療学会 研究発表)

上越市国民健康保険牧診療所 歯科医師 杉田 佳 織

【目的】

介護度が高くなるほど要治療歯は増
加し、口腔清掃状態が低下するために
誤嚥性肺炎の危険が高まることが指摘
されている。しかし、口腔内の不調を
自ら訴える人は少なく、要介護高齢者
の歯科への受療率は低いといわれてい
る。今回、訪問診療を行っている患者
の口腔内状況を評価することにより、
顕在化しない要介護高齢者の口腔内の
問題を明らかにしたので報告する。

【診療所紹介】

診療所がある新潟県上越市牧区は、
人口2109人、高齢化率46・3%と
上越市でも高齢化率の高い地域であ
る。診療所は内科と歯科があり、外来
診療のほか、訪問診療、訪問歯科診療、
訪問看護も行っている。

上越市牧区総合事務所や社会福祉協
議会牧支所と同じ敷地内にあり、保健・
医療・介護・福祉に関わる多くの職種
と連携をはかり、地域の高齢者の暮ら
しを支えている。

【方法】

対象は、平成26年11月から平成27年
3月までの5か月間で、当診療所内科

が訪問診療を行い、主治医の判断、説
明により歯科健診への理解が得られた
患者16名(男性5名、女性11名)平均
年齢88歳(80~99歳)とした。うちター
ミナル患者は2名であった。

新潟県在宅要介護者等歯科保健推進
事業を利用し、無料での歯科訪問健診
を行った。事前に、介護支援専門員か
ら介護者の情報や要介護者の状態を聞
き取り、健診では、食事の状況、口腔
内の清掃状態、口腔機能の状態、歯・
歯肉の状態を評価した。その後、食事
や口腔ケアについての指導を行い、治療
希望者には後日訪問歯科診療を行った。

【結果】

1 健診対象者の状況

主病名は、認知症が5名と一番多く、
意思の疎通を図れない重度認知症の人
は1名であった。要介護度は、要介護
3が5名と一番多く、要介護3以上が
11名(68・8%)であった。

2 口腔内評価

口の中の痛みや詰り物がとれたと
いった不調の訴えがあったのは4名
(25・0%)と少なかったが、要治療
13名、要指導2名と15名(93・7%)

に歯科での対応が必要という結果に
なった。残存歯数は0本が9名(56・
3%)と一番多かったが、一方で24本・
25本と多数歯残存している人も2名
(12・5%)おり、平均残存歯数は
5・4本であった。義歯使用者は13名
(81・3%)で、上下総義歯使用者は
10名、部分床義歯使用者は3名であっ
た。部分床義歯使用者3名は、全員下
顎の義歯を紛失していたが、不調の訴
えはなく、常食を摂取していた。

3 口腔清掃評価と指導区分

口腔清掃状態が不良・やや不良であつ
た人は12名(75・0%)であった。口
腔清掃状態不良の3名のうち2名は、
残存歯数が24本・25本の人であった。
この2人の口腔内は、口腔清掃状態不
良のため口臭があり、歯石除去などの
歯周治療、う蝕治療、抜歯などの外科
治療が必要な状態であった。義歯使用
者13名のうち、11名(84・6%)に義
歯の調整・修理や義歯新製の治療が必
要であった。また、義歯を夜間も装着
していたり、ブラシでの義歯清掃をして
いない人もおり、9名(69・2%)に
義歯の管理や清掃指導が必要であった。

【考察】

今回健診をおこなった結果、本人や
家族からの訴えがなくても口腔内に問
題のある人は多くいることがわかつ
た。残存歯が多いほど口腔清掃が困難
で、多岐にわたる治療が必要な状態
であった。残存歯だけでなく義歯の清掃

状態が悪い人も多く、要介護状態にな
る前に、外来での口腔ケア指導をしつ
かりと行う必要性を感じた。

老老介護や介護者の口腔内への意識
の低さから、指導をしても自宅でのケ
アが困難な場合もみられた。ショート
ステイ、デイサービス利用時のケアこ
そが大切であり、介護施設への情報提
供と、施設職員への口腔ケア指導が重
要であると感じた。

【結論】

在宅要介護高齢者には、顕在化しな
い口腔内の問題が多くあることがわ
かった。また、在宅要介護高齢者の口
腔内状況を知ることにより、介護者や
介護に関わる他の職種に対して指導が
必要な口腔ケアの内容を再確認するこ
とができた。

事前に内科の医師や看護師、介護支
援専門員から情報を得て自宅を訪問す
ることができたため、健診をスムーズ
に進めることができた。また、今回の
結果を地域ケア会議で報告することに
より、他の職種に口腔内への関心を持っ
てもらうことができた。多くの職種と
連携を持ち、必要な情報を共有するこ
とは、健診だけでなく訪問歯科診療を
行う上でも大切であることがわかった。
自宅で健診・口腔ケア指導を受けら
れたことを介護者からは大変喜んでい
ただいた。歯科も訪問診療や健診が可
能であることを知らない人も多く、地
域へ情報発信する必要性を強く感じた。

 **第56回 全国国保地域医療学会**
いしずえ
「地域包括医療・ケア」を地域づくりの礎に
～出羽国(でわのくに)から国保新時代を見据えて～

会期 平成**28**年 10月7日(金)・8日(土)
会場 山形テルサ・ホテルメトロポリタン山形

山形県・秋田県共同開催

全国国保診療施設協議会ホームページより出典

新潟県国保診療施設協議会医療セミナー

会 期：平成28年11月4日(金) 5日(土)
開催地：新潟県南魚沼市
会 場：南魚沼市民病院・越路荘
内 容：4日・視察見学
5日・特別講演、グループディスカッション